

やまどり

俳人協会
群馬支部
☆
発行所
高崎市飯塚町737
TEL027-361-0870

令和3年度紙上総会

新型コロナウイルス感染拡大防止に対応



新型コロナウイルス感染拡大に伴い県指針の警戒度ステージが4に引き上げられ、また例年使用させて頂いている「上毛ホール」も貸し出しが制限されている状況にあります。従いまして集合型の総会を取り止め、会報「やまどり」に総会資料を掲載し報告させて頂きます。

事業報告(事務局長・武藤洋一)
総会(2月16日・上毛ホール)
講演会(2月16日・上毛ホール)
会報の発行(1月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)
秋季吟行会(自由吟行)
支部役員会(1/24 2/16)高崎市

令和2年度収支決算報告書

俳人協会群馬支部
(平成31年1月1日～令和2年12月31日)

収入の部		
項目	決算額	備考
繰越金	246,885	前年度からの繰越金
会費	76名×2000円	152,000
雑収入	俳人協会より総会祝金	10,000
収入合計	408,885	

支出の部		
項目	決算額	備考
印刷費	会報 総会資料 各種案内等	23,234
会議費	総会 役員会等	14,100
講師謝金	講演会講師へ	30,000
雑費	講師土産ほか	6,240
通信費	会報郵送 総会等案内状郵送	45,916
支出合計		119,490
収入合計-支出合計		289,395 次年度へ繰り越し

令和3年1月22日

上記のとおりご報告いたします。

群馬県支部長 原田 清正 ㊞

会計 林 恵美子 ㊞

【会計監査報告】

会計帳簿及び関係書類を監査した結果、適正かつ正確に処理していると認められました。

令和3年1月22日

監査 金子 笑子 ㊞

監査 木下 涼 薫 ㊞

アトリ工他

会計報告(会計・林恵美子)
別掲報告書の通り

監査報告(監査・金子笑子)
別掲報告書の通り

予算案(会計・林恵美子)

【収入の部】

前年度繰越 289,395円
会費・80名×2,000円+160,000円
収入合計・449,395円

【支出の部】

通信費・50,000円
印刷費・50,000円

会議費・30,000円
雑費・30,000円
次年度繰越・289,395円
支出合計・449,395円

事業計画(事務局長・武藤洋一)

総会(紙上総会)

会報の発行(2月、7月)

県支部俳句大会(会報紙上)

秋季吟行会(日時、場所未定)

支部役員会(随時)

人事(支部長・原田清正)

令和3年度からの会計監査は金子笑子氏からの辞退申し出により新会計監査を吉澤章子氏に委託しました。

令和3年度 紙上俳句大会開催

令和3年度群馬県支部俳句大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙上俳句大会といたします。ご理解の上、皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。

- 投句・ 3句(当季雑詠)
- 締切・ 令和3年5月31日
- 投句料・ 無料
- 発表・ 会報「やまどり7号」紙上
- 投句先・ 〒370-0069 高崎市飯塚町737
- ハガキに俳句、氏名(ふりがな)住所、電話番号を記載の上お申し込み下さい。
- ※ 一般の方の投句も可。
- 問い合わせ・ TEL027-361-0870 (原田)

令和2年度

秋の自由吟行作品

10	かなかなや夢二山莊湖に向く	大谷 孝子
9	新原や甌穴の瀬に石たたき コスモスや遠目差しの牧水像 虫しぐれ一里塚まで足のぼす	大澤 文子
8	過疎の村蜻蛉追ふ子の姿無く 新盆や急ぎて作る迎へ馬	佐々木美恵子
7	人面石ムンクの叫び秋意あり 煙草やさしく踏めば細く嘖き 穴に入る蛇のうつろな眼かな	馬上 絹代
6	大雷雨地球溺るる気配かな 辛抱を強いられ案山子肩を張る 綿打ちのよふに我が身もあればよい	北原東洋男
5	湖風の花野の色となりゆるる 名水や自慢の酒と新豆腐 木の実落ち水輪の奥へしまはるる	木下 涼薫
4	嵐さる足をひきずる鳩がいく 採りたての茄子をにぎればキュウとなき 雷あがる露をひとふり大地たつ	小木 矩子
3	腕時計のかすかな音も秋思かな 地虫鳴く晩年の岐路きめかねて 蟻螂のふらりと過去を振り払ふ	林 恵美子
2	幾山河秋蟬の声途切れたり 桐一葉平らに落ちし池の面 木犀香ふわりと風に心持安	佐藤 ヒナ
1	涼やかや小流れに立つ曙草 朝鳴の一声涼し庭さやく 鷹の羽透ける秋天朝の森	木村恵理子
11	さび鮎も利根の川風また旨し せせらぎの調べさやかに眼鏡橋 拍子木に忙し奈落や村芝居 グライダー繋かれ北風に羽撃きぬ 月宿す五重の塔の深庇	柳井 恵康
12	彫刻画蔵す古墳や竹の春 名月やけむりのやうに消ゆる雲 水澄みて川底のものみな見ゆる 越後路へ芒の道の風やさし 川底の石の滑らか釣船草 ラフティング歓声溪に秋暑し	柿沼あい子
13	熊注意看板の立つ稲架襖 鳴悲し贅つくりては忘れゆき 稲雀疾風のごと翔びたてり 大き実と大き木陰の丹波栗 濡縁に犬の寝そべる柚子の庭 秋水をせつせと磨くあめんぼう	宮崎至夏子
14	いしづみの紅葉唱歌や秋の声 おごそかに大根根渡る今日の月 新蕎麦や水車の回る宿場町 記念樹の伸びゆく令和の天高し 御仏のお顔の陰や秋の暮	高橋 富子
15	廃校の庭の草むらちちる鳴く ソーラーのパネル傍まで蕎麦の花 爽籟や芭蕉の句碑の文字うすれ 郷愁の味よ桑の実夫と食む 蜘蛛の囀の輪の真ん中や太道虫 買物の畦道に沿ふ彼岸花	深谷 信郎
16	吹かれ来て蝶の触れゆく秋さくら みづぎの実熟れて鳥まつ雨上がり 色つきし柿の旨さよ瀬祭忌 新蕎麦や庭の花見つ順を待つ	永塩 菊江
17	東司への長き廊下に秋の蜂 久振りに手を入れし樹に鳴鳴けり 賜猛る八州四顧に従へて 神木の洞に闇棲む城の秋 石垣に残る尾を曳く穴まどひ 赤とんぼ湖のほとりに句座ひらく 釜飯弁当千草の中に広げあふ 秋澄むや夢のせ橋に影二つ 庭先に蛇ながながと小六月 母子像や空を鳴き行く秋鴉 蟻螂の玻璃戸を上る台風過 縄の束積みおく園の冬仕度 句会はね秋の果てなる坊泊り 浜菊や潮じめりせる五大堂 子別れの鳥枝替へこ多替へて 立待の里山背丈比べをり 冬隣牛は耳輪をきりめかし 鹿鳴くや木道覆々線工事 鰯雲子大湖面に首傾げ 秋高しケルンの上の小さき富士 暮るる迄菜園片す敬老日 三つ辻を守る地蔵や小鳥来る 蔓引けば鳴子のやうや烏瓜 溪あひに澄みし瀬音や秋の川 見あげれば秋の色なす眼鏡橋 我が山河隈無く照らし月今宵 村に燃ゆ一揆の如き曼珠沙華 いち早く刈田画となる鴉かな 柿色の明るき風や子ら下校 紅ささぬマスクの日々や秋さびし 小さき秋さがすなはん信州路 離れつつ刈田を漁る雉の雛 芒野を抜け曲家の会津そば	濱名 博光
18	角田はる子	
19	善養寺玲子	
20	小菅さと子	
21	南雲 節子	
22	北爪 武夫	
23	小林 和子	
24	深谷 征子	
25	堀越 純	
26	矢野間穠霧	
27	武藤 洋一	
28	岩寄 妥江	
29	黛 正登志	
30	蟻川 玄秋	
31	吉沢 智子	
32	永山比沙子	

- 43 山毛櫨の森縫ひゆくバスや初もみぢ
柴大の花子鴨には目もくれず
鈴木 乗風
- 42 田仕舞ひの雨の兆しや越の国
魯田や佐渡の彼方の夕晴れて
行く秋の空の深きに鴨の声
新蕎麦や人気役者の書をながめ
通草売るよろづ骨董ならぶ中
言の葉にすこし毒ある茸売
高嶺 京子
- 41 廃屋の破れカーテン秋日差す
家々に囲まれ並ぶ稲穂かな
迷ひなき刷毛目みすじや秋の雲
秋澄むや丁須ノ頭確と見ゆ
伐採の寺領明るき菊日和
碑のタウトの文字や小鳥来る
吉藤 淳子
- 40 高空に帰心燕の飛び交へり
山霧や鹿の足跡沼尻に
白衣観音秋の日まとひ照らしをり
織田七代の墓開はれてそぞろ寒
大名庭園小春の鯉もみやびかな
アプト道先へ先へとぼった跳ぶ
利根川の源流漆紅葉かな
群馬県北部山沿ひ紅葉晴れ
熊出つと配達員の腰に鈴
弥城勢津子
- 39 花野にも出没注意しかとくま
廃屋やあをきはやかに草草
たはむれて乱舞のもみぢ掌に受くる
外に内に秋桜溢れ誕生日
天高し煉瓦造りのめがね橋
十三夜少し惚けし母に添ひ
三連の蚕屋の天窓小鳥来る
樺の葉に風待つ浅葱斑蝶かな
繰糸所の連ぬる窓にいわし雲
十三夜幼子すすきを抱へ帰ぬ
中村 明子
- 38 矢野間妙子
- 37 吉藤 青楊
- 36 吉藤 淳子
- 35 高嶺 京子
- 34 大塚 洋一

44 秋迫る木立ちに鴨の居ると知る
高枝の柘榴挽ぐ夫八十路なり
霧霽るる速さカントの変はること
軽トラを連ねて稲架の取り毀し
保健所が来るや浮足立つ小春
金子 笑子

おすすめの吟行地

箕輪城址の周辺 岩寄安江

私達の会は月に一度の吟行会をしています。お互いに齡を重ねたので、短時間で巡れる箕輪城址の周辺は恰好の吟行地です。

箕輪町には母の実家があり、幼いころ東京から疎開した故郷です。城址へは私の住む吉岡町より車で十分ほどです。日本百名城にも選ばれて、建物は復元した門のみですが、大堀切や井戸には往時を偲ぶことができます。難攻不落と言われた箕輪城も、名将の長野業政公が病死するや、忽ち武田信玄軍の標的になり滅亡しました。

一族が自刃したという本丸跡には「春風に梅も桜も散り果てて名のみぞ残るみわの山里」と落城を詠んだ、十九歳の城主業盛公の辞世の歌が歴史を偲ばせてくれます。梅林に白き夜がくる雉子のこゑ 星眠

梅が咲き始める頃は近くの寺々で涅槃会をいたします。又、四月には甘茶仏を花御堂に飾って仏生会があります。長野業政公の菩提寺の長純寺の花御堂は見事です。寺庭の百花を飾って美しく葺き上げます。

少し足を伸ばすと、芝桜を一面に植えた丘陵が望まれ、赤、白、ピンクの芝桜が渦巻き模様になりに彩ります。梅林の坂下には鳴沢湖があり、軽鴨や鴉がいて、岸边には青鷺や白鷺が佇んでいます。

箕輪町は四季折々のお勧めの吟行地です。

多々良沼公園 木村恵理子

私のお勧め吟行地は多々良沼公園です。群馬県の東部館林市と邑楽郡にまたがる一周六キロほどの沼、冬になると近くのガバ沼に白鳥が飛来することでも知られています。天気の良い日は、富士山を展望できる「夕日の小道」の歩道も整備され散歩が楽しめます。

私の家から車で二十分ほど。穏やかな立冬の日が多々良沼公園のガバ沼まで足をのびしてみた。ヘラブナやバスを釣る人や歩道をゆっくり散歩する人の姿があった。その中で沼辺にカメラを据え水鳥の瞬間の動きを狙っている人に出会った。様子を見ると枯れ葦に囲まれた湿地に鶴が立っていると、カメラのファインダーを覗かせてくれた。鶴に似ているが、羽の先の方は黒く細い足は赤い、太い嘴で魚を狙っていることがわかった。愛鳥家曰く、この沼の環境が合っているんでしょねと話してくれた。私は心が豊かになりお礼を述べて浮島弁財天に向かった。沼の浮島にお堂があり、愛鳥家が水辺の鳥を狙って撮影している。初冬頃は白鳥、オナガガモ、ユガモ、カンムリカイツブリ、川鶴が見られるそうだ。私が水鳥を観察しながら聞き耳をたてると、「今日は浜しぎが群れて浮寝をしている」「みさこが魚を狙ったが二回失敗した」と興味深い話が聞こえてきた。さっそくファインダーを覗かせてもらおうと、浮寝の浜しぎが異変を感じ群れ飛び始め薄日の中光り輝いていた。貴重な野鳥の姿に接し、愛鳥家に感謝し帰路についた。



第60回全国俳句大会

◆募集 2句1組(未発表作品・旧かな表記・所定用紙またはコピーしたものを使用)

◆投句料 1組1000円(小為替又は現金書留)

◆締切 令和3年4月15日(木)※当日消印有効

◆送付先 〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10 俳人協会「全国俳句大会」係03(3367)621

◆選者

有馬朗人・伊藤伊那男・茨木和生・今井聖・今瀬剛一・大石悦子・大串章・岡田日郎・小川軽舟・小澤實・權未知子・角谷昌子・加古宗也・柏原眠雨・片山由美子・栗田やすし・古賀雪江・小島健・怒賀直美・鈴木貞雄・鈴木しげを・染谷秀雄・棚山波朗・徳田千鶴子・中原道夫・仲村青彦・西嶋あさ子・西村和子・西山睦・野中亮介・能村研三・福永法弘・藤本美和子・星野恒彦・松尾隆信・松岡隆子・三村純也・村上喜代子・森田純一郎・山崎ひさを(50音順)

◆大会 令和3年9月14日(火)正午開場、午後1時開会(入場無料)有楽町朝日ホール・東京都千代田区有楽町

2-5-1 電話03(3284)0131

有楽町マリオン11階(JR有楽町駅中央口または銀座口・地下鉄銀座駅C-4出口・地下鉄有楽町駅D-7a、D-7b出口)

車椅子での入場も可能。前もって俳人協会にお電話下さい。

◆賞 大会賞・秀逸賞・各選者の特選賞。☆大会終了後応募者全員に入選作品集をお送りします。

☆応募作品の訂正・取消しには応じられません。

☆類句及び二重投句については、入選を取消することがあります。

☆入賞作品は、俳人協会のホームページに掲載します。

☆なお大会当日、参会者より1句を募集し、特選・入選者に賞を呈します。(投句締切、午後1時。未発表作品。投句料無料)。

主催 公益社団法人 俳人協会
後援 朝日新聞社

トビックス

冬牡丹と言うと、上野の東照宮が有名だがこの冬は、前橋バラ園の蚕糸記念館横の数がみごとに花をつけた。ことにその中の1本は、小ぶりだが20あまり

の花をつけ、尚数個のつぼみを持っている。桃色の和紙で造られたようなその花は、切り詰めた枝先から10センチほど伸びた、赤く霜焼けした新らしい枝の先についている。東照宮のように藁囲いで手厚く管理されたものではなく、空っ風に咲く野生的な牡丹もまたいいものだ。

園内のバラも昨年の秋薔薇は、質、量ともに例年になく見ごたえがあった。コロナの影響で、5月のバラ園祭りが中止され閉園となり、花を摘まれた薔薇や牡丹が、必死に命をつなごうとする姿のように思える。私たち人間も、そんな花たちに負けぬよう強く生きねばならない。

(よ)

こらむ・したりお

2020(令和2)年を迎えるにあたり、前年末に「子年はどんな年か」を調べてみた。その結果、1888(明治21)年から2008(平成20)年までに11回の子年があったが、そのうち10回で首相が交代していた。子年は首相が交代する。不特定多数の人たちの前で話す機会には、この話を得意になって話してきた。

そして子年の2020年8月28日、安倍首相が辞意を表明した。▼たまたまその前日(27日)、前橋市の中央公民館で講演し、「子年は首相が交代する」と話し、

そのことが翌28日の上毛新聞に掲載されたため「予言的中」となった。喜びのあまり、親しい知人に「政変を予測したよ」とメールしたら「長期政権が末期になっていることぐらい誰でも分かるよ」と一蹴されてしまった。▼来年はどうか。早速調べてみた。戦後6回の丑年で、首相が交代したのは2009(平成21)年のみ。1949(昭和24)年・吉田茂、1961(同36)年・池田勇人、1973(同48)年・田中角栄、1985(同60)年・中曽根康弘、1997(平成9)年・橋本龍太郎(いずれも比較的安定した政権を維持していた宰相だ。このことから考えれば、首相交代はなさそうだが、菅首相の棒読み答弁を見ると、いささか心許ない。▼では、2021(令和3)年はどんな年になるのか。調べたメネを見るところ不穏な事件や重大事故が多く、あまりいいことはない。2020年はコロナに明け暮れた。今度は予測が外れることを願っている。(M)



県鳥・やまどり